

5. 「五感で学ぼう！」自然体験プログラム

日光国立公園那須高原集団施設地区「五感で学ぶ！」プロジェクトの魅力あるプログラムとするために、以下のポイントや自然環境、歴史を踏まえ、子どもを対象とした自然体験・自然学習のプログラムを作成した。また、特別な専門知識を持たない指導者が、自然体験学習を行う場合を想定し、安全対策や子どもを引き込む技術的手法を盛り込んだマニュアルとした。

5-1. 「五感で学ぼう！」自然体験プログラムの基本方針

平成19年6月に閣議決定した21世紀環境立国戦略では持続可能な社会の構築の必要性が提示され、その実現に向けた重点施策の一つである戦略7では「環境を感じ、考え、行動する人づくり」を掲げている。その中では『いつでも、どこでも、誰でも「21世紀環境教育プラン」の展開』が提示されており、子どもから大人まであらゆる年齢層に対して、また、家庭、学校、地域、企業等のあらゆる場において質の高い環境教育・環境学習の機会を提供する施策を、環境省を含む関連省庁が連携して、体系的に取り組むことになっている。今回の『五感で学ぼう！』自然体験プロジェクトも「21世紀環境教育プラン」に位置づけられており、次世代を担う子どもたちにとって、「人と自然」の関係など自然との共生や生物多様性についての理解向上を図り、人として豊かな成長につなげることが重要である。

「那須の森」は環境省が自然体験のフィールドを所有している数少ない場所であり、戦略7を自ら具現化する場所として期待できる。また、過去の人為的影響によって成立した二次林が存在しているので、「昔は自然と上手に付き合っていた」ということを学び、健全な生態系を維持・回復し、自然と人間との共生を確保していくことが必要であることを体験的に学ぶのに適した場所である。

これらの背景から、『五感で学ぼう！』自然体験プロジェクト業務のプログラム提案における基本的な方針を以下のように定める。

・「那須の森」は、「国民が直接自然とふれあえる場に」という陛下のご意向を受けたものであり、自然体験の少ない現代の子供達がここで豊かな自然を体験し、体験を通して自然の仕組みを学ぶ内容とする。

・「那須の森」は、農業・林業の営みと自然とが調和しつつ維持された里山として活用されてきた。里山は、生物多様性の確保、環境の保全、災害の防止機能、良好な景観の形成等の多面にわたる機能を持った、理想的な姿と言える。この日本の貴重な財産を後世に受け継ぐために、里山の役割や管理の必要性、里山と人との関わりを学ぶ内容とする。

・昭和天皇の御研究や平成時代の生物調査でも明らかなおり、「那須の森」には多様な生物が

確認されているため、ツキノワグマなどの大型哺乳類を含めた多様な生物とそのつながりについて学ぶ内容とする。

(1) テーマ

上記の基本方針から、プログラムのテーマを以下 3 点とする。

- ・自然体験から学ぶ自然の仕組み
- ・「里山」と「人」との関わり
- ・生物多様性

(2) 対象による目的

幼児から中学生という年齢では、感受性や見方・考え方という発達段階が異なることから、対象となる年齢に応じた学習を行なう必要がある。プログラム作成においては、平成 15 年 7 月 25 日に公布された「環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」に定められた事項を進めるために閣議決定された、「環境保全の意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本的な方針」(平成 16 年 9 月)に基づき、対象年齢に応じた具体的な目標を定めた。

- ・ 幼児・小学生低学年 : 「那須の森」に触れ、楽しみ、自然に対する感受性を養い、自然に対する興味関心を育てる
- ・ 小学生中・高学年 : 自然の仕組みや自分の生活との関わりについて理解する
- ・ 中学生 : 環境に関する知識を養い、主体的に関わる意欲を高める

(3) プログラムの構成

プログラムの基本的な構成は以下の 4 つの手順を踏むこととする。

